

学校名		鳥栖市立鳥栖中学校	
-----	--	-----------	--

1 前年度
評価結果の概要

・学校教育目標とそれに基づいた重点目標の実現に向けた教育活動を行い、「進路指導の充実」以外の項目で、成果指標（数値目標）を達成することができた。
・いじめ事案の対応や不登校生徒の組織的対応では、今後も組織的対応を行っていく。
・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」では、継続し業務改善に取り組むことで、教職員の資質向上に努めていく。

2 学校教育目標

ふるさと鳥栖に誇りをもち、「学び合い、支え合い、高め合う生徒の育成」

3 本年度の重点目標

①確かな学力の定着

②豊かな心の育成

③心身の健全な育成

④コミュニティスクールの推進

4 重点取組内容・成果指標					5 最終評価		
(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎・基本の定着に向けた、わかる授業の共通実践 ○タブレットの効果的な活用 ○家庭学習の充実	○「分かりやすい授業のために、先生達は工夫していると思う。」と回答した生徒80%以上 ○「授業で効果的にICT機器を活用している。」と回答した教師90%以上 ○「自主的に家庭学習に取り組んでいる。」と回答した生徒80%以上	・一人一台端末を活用した相互授業参観を実施し、多角的な視点から授業改善を図る機会を設定する。 ・全職員のICT機器スキル向上のための研修会を開催する。 ・授業と家庭学習をつなげるために、計画的に週一課題を設定し、計画的な学習を推進する。	B	・「分かりやすい授業のために先生達は工夫していると思う」と回答した生徒は96%であり、成果指標を上回った。 ・「授業で効果的にICT機器を活用している。」と回答した教師86%であり、成果指標を下回った。 ・「自主的に家庭学習に取り組んでいる。」と回答した生徒91%で成果指標を上回った。 ・今後は、校内研究等で、全職員のICT機器の活用スキルをさらに向上させ、学力向上につなげていくことを目指していく。	B	・「先生達は工夫していると思う」と回答した生徒が96%ということから、先生方の共通実践の成果が表れているといえる。 ・どの先生も連携しながら、ICT機器を活用した授業ができるように、今後も計画的に校内研等で取り組みを継続してほしい。 ・今後、より効果的なICT機器の活用を進めていくため、評価を「B」とする。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教師80%以上 ○人権・同和教育に関する意識が高まった生徒80%以上	・各学年ごとに、共通理解のもと、共通教材を用いながら道徳の授業を実施する。 ・12月の人権週間において、生徒を主体とした取組を行い、人権感覚を高める。	A	・「全体計画に基づいて授業を行った」と回答した教師は94%。「思いやりや人権を大切にする意識をもっている」と回答した生徒は98%であり、成果指標を上回った。 ・各学年、共通の教材を用いた道徳やローテーション道徳を実施した。オリジナル教材を用いたり、学活との連携を密にした教材を扱い、各学年の状況に合った授業を行うことができた。 ・来年度も、年間計画を立て見通しをもって、道徳教育を教職員全員で進めていく。	A	・生徒アンケートでは、肯定的な回答が90%以上あり、先生方の道徳教育の実践の成果が表れている。 ・今後も、共通の教材を用いた道徳教育の実践を継続し、心の教育の推進を行ってほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ・いのちを考える日」の取組100% ○「いじめ防止等のための取組について組織的対応ができている」と回答した教師80%以上	・毎月10日の「鳥栖市いじめ・いのちを考える日」に生活アンケートを実施する。 ・週に1回、生徒指導委員会を開催し、いじめに関する情報の共有と対策に努めていく。 ・事案が起きたときに迅速に組織対応ができるように、「報告・連絡・相談」の基本ルートを明確にしておく。	A	・「いじめ防止等に対応した組織的な取り組みができている」と回答した教師は94%であり、成果指標を上回った。 ・生徒指導委員会で情報の共有や対応について共通理解し、課題解決に向けて話し合うことができた。 ・いじめ事案では、各学年で迅速に対応することができた。今後は、情報共有の場を多く設定し、学年の枠を超えた組織的な対応を行っていく。	A	・いじめ防止や不登校生徒への対応は、充分にできていると思う。今後も、組織的に対応することを意識しながら取り組んでほしい。 ・毎月の生活アンケートでは、いじめに関係のない生徒でも、意見が書かれていたら丁寧に対応していってほしい。
	●⑥児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・学校行事やクラスで、多くの生徒に出番を設定し、承認する場を設定していく。 ・全職員が、生徒の資質・能力を育む授業を実践できるように、全職員に授業実践例等の情報提供を行っていく。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は95%であり、成果指標を上回った。 ・「将来の夢や目標を持つことができている」と回答した生徒は80%であり、成果指標を上回った。 ・生徒が中心となって、ペットボトルキャップ回収や赤い羽根募金、人権週間の取組を行うことができた。 ・今後も、生徒の実態に応じた取組を計画的、継続的にやっていく。	A	・生徒アンケートは2つとも肯定的意見が高く、取組の成果が表れている。 ・ペットボトルキャップ回収や募金活動など、生徒が主体的に取り組める活動を行っていくことが大切であると思う。生徒が主体的に取り組める手だてを講じたい。
●健康・体づくり	●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と回答した生徒80%以上	・関連する教科等において、食に関する指導の視点を位置づけて指導する。 ・給食だよりや保健だより、健康委員会による校内放送で、健康であることの大切さを周知する。 ・保護者面談等で、より良い生活習慣に関する資料を配布し、周知や意識づけを行っていく。	A	・「健康は何より大切で保健で学習したことを自分の生活に生かしている」と答えた生徒は87%であった。 ・「子どもたちが健康であることを心がけて生活ができていると感じている」と回答した保護者が83%であった。今後は食生活と普段の生活のバランスについて、さらに焦点をあて、取組内容を増やしていきたい。 ・生活をしていく上で健康とは、心身ともにバランスのとれた生活を送ることが最も大切なことだということを今後も多くの場面で周知徹底していく。	A	・道徳や学級活動などでも、「健康・体力づくり」の取組と関連した学習を行っていけば、さらに効果が表れると思う。 ・食事や健康は家庭教育が主なので、今後、保護者に啓発していくことが必要である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・公務用パソコンを活用した情報の共有やペーパーレスの会議を行い、資料準備等の業務軽減に努める。 ・会議の開始時間を明確にし、厳守することで会議の効率化と会議時間の短縮を図る。 ・毎週水曜日をノーマルデーと設定し、定時退勤日とする。	B	・4～8月の4か月間の平均勤務時間は昨年度よりも約10時間減少した。 ・「業務改善の視点をもって、業務に取り組んでいる。」と回答した教師83%であった。 ・連絡掲示板やペーパーレスの会議により、会議時間の短縮することができた。 ・ノーマルデーの日に、定時退勤する職員が多く見られた。 ・「すぐる」の有効活用を通して、保護者連絡等の時間を短縮していく。 ・今後も継続して取り組み、時間外勤務の改善に努めていく。	B	・少しであるが、時間外勤務が減少したことは評価できる。 ・「すぐる」は、プリント類のデータ配信機能など業務軽減に生かせると思う。他にも、管理支援ソフト等活用できるものがあれば活用していいと思う。 ・健康に留意しつつ、改善に向けた取組を今後も継続してほしい。 ・改善できる部分を考慮して、評価を「B」とする。
●特別支援教育の充実	○組織的、計画的な教育支援を要する生徒の指導の実践 ○全ての生徒が、落ち着いて過ごせる環境づくり	○「毎時間の授業で、誰もが安心して学べる授業のUD化に努めている」と回答した教員80%以上	・週に1回、特別支援教育委員会を開催し、生徒の情報交換、支援計画や指導計画の作成、具体的な対応に関する協議を行う。 ・授業で、学びの過程を可視化する等、学びのUD化に努める。 ・全職員の専門性向上のために、障害についての理解を深め、適切な指導・支援について学ぶ研修会を実施する。	A	・「毎時間の授業で、誰もが安心して学べる授業のUD化に努めている」と回答した教師が97%であった。 ・「通常学級でもできる特別支援教育」に関する研修会を実施し、定期的に特別支援教育に関する情報提供を行い、全職員の専門性向上を目指した。 ・定期的特別支援教育委員会を通して、教員の専門性向上を図り、より良い支援体制の構築につなげることができた。来年度も、全職員の専門性の向上に努めていく。	A	・全職員が生徒の困り感に対し、指導・支援を適切に行っており、特別支援教育の理解を深めていると思う。 ・全ての生徒が安心して学習に取り組めるように、今後も、授業のUD化を推進してほしい。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・学校訪問や授業参観で各学級1回以上、公開授業を行う。 ・学級通信や学年通信で教科「日本語」の情報を学期毎に発信する。	A	・焼き物や着付け、茶道体験に各学年で体験型授業を行うことができた。さらに、外部講師の講話を設定し、生徒の日本文化への興味を引き出すことができた。 ・公開授業にて教科「日本語」を行ったり、通信で学習の様子を伝えたりと地域・保護者に発信することができた。 ・次年度も、教科「日本語」の授業公開、情報発信を全職員で協力して行っていく。	A	・焼き物や着付け、茶道などの体験活動は、普段の生活ではできないことで、とても良い経験になっている思う。さらに、家庭での話題にもなる。将来的に良い影響を与えていると考えられる。 ・教科「日本語」の授業公開や通信等での発信等を、今後も継続してほしい。
○開かれた学校づくり	○学校運営の状況に関する積極的な情報提供の推進	○「学校は必要な情報提供を行っている」と回答した保護者80%以上	・ホームページやマチコミメールを活用し、迅速に学校の情報を発信する。 ・ホームページを2週間に1回以上更新する。	A	・「学校はホームページやすぐるを活用し、必要な情報提供を行っている」と回答した保護者は、92%であり、成果指標を上回った。 ・ホームページの更新回数は、1週間に1回程度更新することができた。 ・今後もホームページやすぐる等を活用し、継続して情報発信を迅速に行っていく。	A	・「学校だより」を閲覧すると学校の状況がよく分かる。今後も、発信を続けてほしい。 ・ホームページやすぐるを活用し、情報発信が充分にできていた。今後も、情報発信を継続してほしい。

●・・・県共通 ★・・・鳥栖市共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・
次年度への展望

・生徒および保護者のアンケート結果は、本校の教育活動に対して好意的な評価が多く、全ての項目で成果指標を上回っていた。次年度も、生徒や保護者の声を大切にしながら、教育の質を向上させる取組を推進していきたい。
・「学力の向上」の取組では、全職員が生徒用端末を活用した公開授業を行うことができた。次年度は、全職員のICT機器の活用スキルの向上と授業改善を継続して行い、学力の向上を目指していきたい。
・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」では、今後も引き続き業務改善に取り組む、教職員の資質向上に努めていく。